

令和3年度 全国学力・学習状況調査 小学校 国語

1. 結果の概要

分類・区分		対象問題数	白杵市	大分県	全国
全体		14	61	66	64.7
知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	6	66.1	69.7	68.3
	情報の扱い方に関する事項	0			
	我が国の言語文化に関する事項	0			
思考力 ・判断力 ・表現力等	話すこと・聞くこと	3	74.6	77.4	77.8
	書くこと	2	62.5	64.8	60.7
	読むこと	3	37.3	46.5	47.2
評価の視点	知識・技能	6	66.1	69.7	68.3
	思考・判断・表現	8	57.6	62.7	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	8	69.3	72.4	71.7
	短答式	3	65	71.2	70.6
	記述式	3	36.2	42.4	40.2

2. 学びの成果が見られる問題の趣旨（正答率が全国の前年を上回った問題）

○目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える。  
【話す聞く・思判表・選択】（+1.4）

○目的や意図に応じて理由を明確にしながらか自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。  
【書く・思判表・記述】（+7.8）

○学年別漢字配当表に示されている漢字（転がっている）を文の中で正しく使う。  
【知識技能・短答】（+1.3）

○文の中における主語と述語の関係を捉える。【知識技能・選択】（+7.6）

3. 課題の見られる問題の趣旨（正答率が全国の前年を-5下回った問題）

○資料を用いた目的を理解する。【思判表・選択】（-8）

○文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する。【思判表・選択】（-9.6）

○目的に応じ、文章と図表を結び付けて必要な情報を見つける。【思判表・記述】（-6.6）

○目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する。【思判表・記述】（-12.5）

○学年別漢字配当表に示されている漢字（積み重ね）を文の中で正しく使う。  
【知識技能・短答】（-10）

○学年別漢字配当表に示されている漢字（原因）を文の中で正しく使う。  
【知識技能・短答】（-7.9）

4. 国語科に関する児童質問紙の回答

質 問	どちらかといえば		どちらかといえば	
	当てはまる	当てはまる	当てはまらない	当てはまらない
国語の勉強は好きだ	31.3	31.7	22.9	14.1
国語の勉強は大切だ	73.2	20.4	4.9	1.4
国語の授業の内容はよく分かる	45.1	42.6	10.9	1.4
国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つ	69.4	23.9	5.3	1.4
国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしている	40.8	43.3	14.1	1.8
国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしている	34.2	40.1	18	7.7
国語の授業では、目的に応じて自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり、表現を工夫して書いたりしている	26.8	46.5	21.1	5.6
国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えを持ったり、自分の考えを広げたりしている。	34.2	40.1	18	7.7
今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。どのように解答しましたか	最後まで努力した 79.9	途中であきらめた 18.3	解答しなかった 1.4	

○問題番号【1-2】

問題の概要	出題の趣旨	白桦市正答率	県正答率	全国正答率
津田梅子についての「スピーチ」の練習で資料2と資料3を使った理由の説明として適切なものを選択する	資料を用いた目的を理解する	66.9	73	74.9

ありませんでした。

(資料③)を示す。もう一つの業績は、この学校で女性の英語教師を育成したことだ。女子英学塾では、学生が英語教師の資格を得ることを目標にかけつけていました。津田さんは、授業の中で、よく学生たちと英語で議論を交わしました。学生がどんな意見を言っても批評することはありませんでしたが、はっきりと自分の意見を言わないときは厳しく指導をしました。そして開校から三年後、第一回卒業生の半数以上が、女性で初めての英語教師の資格試験の合格者となりました。

(資料④)を示す。この地図を見て下さい。このように、津田さんは、社会に出て活躍する女性を養うのに尽力しました。

津田さんは、信念をもって夢を成し遂げ、新たな道を切り開いた人だと思います。津田さんの、だれもが社会で活躍する可能性を広げた業績は、素晴らしいと思います。私は、津田さんのこの業績が、新しいお礼の「顔」となることになったのだと思います。

資料② 津田梅子の業績2  
女性の英語教師を育成

資料④ 津田梅子の業績4  
新五千円札の「顔」

小図-2

上野さんの学級では、興味をもった人物について調べ、スピーチで紹介しようことにしました。上野さんは、津田梅子について調べ、メモをもとに資料を画面に映しながらスピーチの練習をしています。次は、上野さんの「スピーチメモ」。「スピーチ」から(資料②)です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

「スピーチメモ」

「はじめ」

○話題の提示 (資料①)  
・新五千円札の「顔」  
・津田さんの説明

「中」

○津田さんの業績 (資料②)  
・業績1 (資料③)を設立  
・業績2 (資料④)を設立  
・女性の英語教師を育成

○自分の抱負 (資料④)

(資料①)を示す。みなさん、これを見て下さい。今度新しい五千円札の「顔」となるのは、津田梅子さんです。私は、どのような業績を残した人なのかを調べてみました。

津田さんは、今から約百年前の教育者で、女子教育の発展に力をつくした人です。日本初の女子留学生として六歳から十一年間、アメリカで教育を受けた津田さんは、女性のための新しい学校を日本につくりたいという夢をもつようになります。津田さんは、社会に出て活躍する女性を育てる教育の実現を目指したのです。そんな津田さんの業績の中から、二つのことを紹介します。

(資料②)を示す。一つは「女子英学塾」を設立したことだ。津田さんは、二十四歳で再びアメリカに渡り、大学で学びます。そして一九〇〇年、三十五歳のときに、日本で学校を設立するという長年の夢を実現しました。これが女子英学塾で、今の大学と同じような勉強をする学校です。当時の日本には、女性の進めるこのような学校がほとんど

資料② 津田梅子の業績1  
1900年 女子英学塾を設立

資料③ 津田梅子の業績3  
新五千円札の「顔」  
津田梅子(1854-1929)

上野さん

小図-1

- 二 上野さんが、「スピーチ」の練習で、(資料②)と(資料③)を使った理由の説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- 1 難しい言葉の意味を示すことで、聞き手に正確に理解してもらったため。
  - 2 自分の疑問点を示すことで、聞き手にもいっしょに考えてもらったため。
  - 3 スピーチでは話さない情報を示すことで、聞き手に新たな興味をもってもらうため。
  - 4 特に伝えたいことの要点をまとめて示すことで、聞き手の理解を助けるため。

(解答累計)

1	8.8
2	7.4
3	16.5
◎4	66.9



(授業改善のポイント)

(考察)

資料を用いた目的を理解できているかを見る問題である。資料②資料③は津田梅子の業績を説明するために伝えたいことを要約して端的に示している。正答の④は、業績の内容の要点を文字と数字でまとめている。①は「難しい言葉の意味を示す」こと、②は「自分の疑問点を示す」こと、③は「スピーチで話さないこと」が資料の内容に当てはまらない。誤答を選んだのは、スピーチ文と資料を対応させながら読み取ることができていなかったためと思われる。

思考力・判断力・表現力等の「話すこと・聞くこと」の指導事項として○話題の設定、情報の収集、内容の検討○構成の検討、考えの形成○表現、共有○構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有○話合いの進め方の検討、考えの形成、共有がある。学習指導要領には学年ごとに指導事項が明記されており、その内容を意識した学習を展開していく必要がある。第5学年及び第6学年の表現・共有(話すこと)では、資料を活用するなどして、「自分の考えが伝わるように表現を工夫すること」が位置付けられている。「資料を活用する」では、音声言語だけでは聞き手が理解しにくかったり誤解を招きそうだったりする場合などに、説明を補足したり伝えたいことを強調したりするために資料を用いる。目的や相手、状況などを踏まえ適切な資料を使った話す・聞く学習をICTを使ったりしながら行っていきたい。また、文章と資料を対応させて、比較しながら読み取ることも大切にしていきたい。

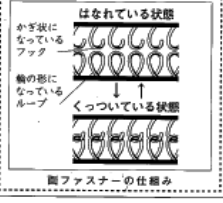
○問題番号【2-1】

問題の概要	出題の趣旨	白桦市正答率	県正答率	全国正答率
面ファスナーに関する【資料】の文章が、何について、どのように書かれているのかの説明として適切なものを選択する。	文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する。	68	76.9	77.6

2 相川さんの学校では、身近にある便利なものについて調べています。相川さんは、面ファスナーを選びました。次は、相川さんが読んだ「資料」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

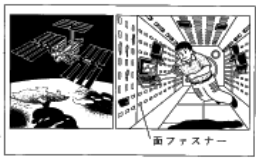
【資料】

**面ファスナー**  
 面ファスナーは、かさやくつつくなど、さまざまな製品の留め具として使われています。簡単にくつつけたり、はがしたりすることができ、とても便利な道具です。  
 面ファスナーは、一九四八年にスイスで起こったあるできごとがきっかけで開発されました。狩猟のため、愛犬を連れて山に登ったジョルジュ・メストラルは、犬の毛に野生のゴボウの実がたくさんついていて、くっつくことに気がつきました。不思議に思い、その実をちぎって顕微鏡でくわしく調べてみると、ゴボウの実の曲がったかぎ状のトゲがおおわれていることがわかりました。そのトゲが犬の毛にかみついていていたのです。このことをヒントにメストラルは研究を重ね、数年後、特殊な素材を使い、面ファスナーを作り出しました。  
 一九六〇年に、日本ではじめて面ファスナーの製造・販売が始まりました。しかし、そのよさや使い道はなかなか世の中に伝わりませんでした。広く知られるようになったきっかけは、一九六四年十月の東海道路幹線の開業でした。新幹線の座席のヘッドレストカバー（頭をさえる布）の留め具として、面ファスナーが採用されたのです。新幹線の清掃作業の際には、短時間でヘッドレストカバーを交換する必要があります。そのため、一つ一つ取り外さなければならぬボタンやボタンの留め具の簡単な面ファスナーの方が、留め具として適していたのです。誰もが目にする新幹線に使われたことで話題となり、その存在が日本中に知られるようになりました。  
 一九八〇年代には、私たちの身近にある製品でも使われるようになりました。財布やかばん、かさなどの家庭用品をはじめ、サポーターや血圧計の巻き付けバンドなどの医療用品にも広がっていき、布のように柔軟性があり、物や体の形にぴったり合わせることができ、面ファスナーが通っていたから、中でも大流行したのが、面ファスナーを使った運動ウェアです。ひもと比べて、手間を省かず、目や好みに合わせて締めたいを調節することができるように支持されたのです。同時に、素材の開発も進められました。現在では水に強く、熱にも強い素材で作られているものもあります。  
 また、しっかりとくつつく簡単なものはありますが、くつつくことができる面ファスナーは、宇宙でも使われています。地球のまわりを回る国際宇宙ステーションの中には無重力状態のため、物がうかびます。そこで活躍しているのが面ファスナーです。国際宇宙ステーション内のかべや天井には、あらゆる場所に面ファスナーが取り付けられています。ペンやスプレー、カメラやコンピュータなど、身の周りの全ての物が固定できるように使われています。  
 一人の気づきから誕生した面ファスナーは、人びとの要求に応える形で、活躍の場を広げました。身近な生活場面だけでなく、宇宙空間にまで広がり、さらなる便利さが追求されています。



面ファスナーの仕組み

短時間でヘッドレストカバーを交換する必要があります。そのため、一つ一つ取り外さなければならぬボタンやボタンの留め具の簡単な面ファスナーの方が、留め具として適していたのです。誰もが目にする新幹線に使われたことで話題となり、その存在が日本中に知られるようになりました。  
 一九八〇年代には、私たちの身近にある製品でも使われるようになりました。財布やかばん、かさなどの家庭用品をはじめ、サポーターや血圧計の巻き付けバンドなどの医療用品にも広がっていき、布のように柔軟性があり、物や体の形にぴったり合わせることができ、面ファスナーが通っていたから、中でも大流行したのが、面ファスナーを使った運動ウェアです。ひもと比べて、手間を省かず、目や好みに合わせて締めたいを調節することができるように支持されたのです。同時に、素材の開発も進められました。現在では水に強く、熱にも強い素材で作られているものもあります。  
 また、しっかりとくつつく簡単なものはありますが、くつつくことができる面ファスナーは、宇宙でも使われています。地球のまわりを回る国際宇宙ステーションの中には無重力状態のため、物がうかびます。そこで活躍しているのが面ファスナーです。国際宇宙ステーション内のかべや天井には、あらゆる場所に面ファスナーが取り付けられています。ペンやスプレー、カメラやコンピュータなど、身の周りの全ての物が固定できるように使われています。  
 一人の気づきから誕生した面ファスナーは、人びとの要求に応える形で、活躍の場を広げました。身近な生活場面だけでなく、宇宙空間にまで広がり、さらなる便利さが追求されています。



国際宇宙ステーションとその内部

- 1 相川さんが読んだ「資料」の文章は、何について、どのように書かれていますか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- 2 面ファスナーの開発と広がりについて、時間の経過にそって書かれている。
- 3 面ファスナーの長所と短所について、それぞれの事例が交互に書かれている。
- 4 面ファスナーの開発と広がりについて、筆者の問いとその答えがくり返し書かれている。

(解答累計)	
◎1	68
2	10.6
3	12.7
4	8.5



(授業改善のポイント)

読むこと(説明的文章)の第5学年及び第6学年の「構造と内容の把握」の指導事項は、「事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉え把握すること」とある。要旨を把握するためには、文章全体の構成を捉えることが必要になる。叙述を基に、書き手がどのような事実を理由や事例として挙げているのか、どのような感想や意見などを持っているのかに着目して、事実と感想、意見などとの関連を押さえることとなる。その時、文と文との接続の関係(接続語など前の文と後ろの文とのつながり)や話や文章の構成や展開(「始め—中—終わり」や「頭括型、尾括型、総括型」と関連付けて指導したい。

(考察)

文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することができているかを見る問題である。面ファスナーの開発された経緯と活用が広がったことについて、時間の経過に沿って書かれているので正答は①である。②は、長所は書かれているが短所は書かれていない。③は、一つの事例でなく複数の事例が取り上げられている。④は、筆者が問いとその答えを繰り返しては書かれていない。1948年・1960年・1980年代・現在の宇宙での活用が順を追って説明されている文書構成を捉えきれなかったと思われる。

○問題番号【2-三】

問題の概要	出題の趣旨	白桦市正答率	県正答率	全国正答率
面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く。	目的に応じ、文章と図表を結び付けて必要な情報を見つける。	27.8	33.8	34.4

(解答累計)

条件①aヒントになったことbくつつく仕組みを取り上げる ②資料「面ファスナーの仕組み」から言葉や文を取り上げている ③50字以上80字以内で書いている			
条件①②③を満たしているもの	27.8	条件①の仕組みは満たしているが、ヒントを満たしていないもの	48.2
条件①②は満たしているが条件③を満たしていないもの	0	条件②は満たしているが、条件①を満たしていないもの	16.2
条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもの	0	それ以外の解答	0.7
条件①のヒントは満たしているが、仕組みを満たしていないもの	12.3	無解答	6.3

(考察)

目的に応じて、文章と図表を結び付けて必要な情報を見つけることができるかを見る問題である。面ファスナーのくっつく仕組みについて考えていることを捉え、【資料】の中の文章と「面ファスナーの仕組み」とを結び付けて必要な情報を見つけ、「何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作ったか」を3つの条件に合わせた書かなくてはならない。「ゴボウの実のトゲがかぎ状であること」と「面ファスナーのフックがかぎ状であること」を見つけ、これらを結び付ける必要がある。誤答の多くは、条件①のa「ヒントになったこと」とb「くっつく仕組み」の一つしか満たして書いていないためである。

(授業改善のポイント)

目的に応じて、必要な条件を見つけるには、書き手の述べたいことを知るために読む、読み手の知りたいことを調べるために読む、知的欲求を満たすために読む、自分の表現に生かすために読むなどの目的に応じて、文章の中から必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることが必要である。必要な情報は、目的に応じて変わるため読む目的が不明なままでは読み取れない。目的を明確にして読む必要がある。説明文の要約や要旨をまとめる学習では、何の条件もなくまとめさせるのではなく、「キーワードとなる言葉を入れる」「図や表と関連付ける」「字数制限をする」など条件を設定してまとめるようにしたい。

※この用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は解答用紙に書き直します。★の印から書き直してください。どちらの行でも書き直して、続けて書き直してください。

- ヒントになったことと、面ファスナーのくっつく仕組みが分かるように書くこと。
- 【資料】の中の文章と「面ファスナーの仕組み」から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 五十文字以上、八十文字以内にまとめて書くこと。



三 相川さんは、「資料」の——部を読み、面ファスナーのくっつく仕組みについて考えています。イラストは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出しましたか。次の条件に合わせ書き直してください。

○問題番号【3-三】

問題の概要	出題の趣旨	白桦市正答率	県正答率	全国正答率	
丸山さんの【文章の下書き】の中の、線部を漢字を使って書き直す。	学年別漢字配当表に記されている漢字を文の中で正しく使う。	(2) 積み重ね	44.4	51.3	54.4
		(3) 原因	71.1	80.3	79

次の——部を漢字で書いてねいに書き直そう。  
かたづけられたり時間がなくなってきたづけられなかったりすることが、エけんいんの  
だと思えます。

次の——部を漢字で書いてねいに書き直そう。  
また、遊具置き場では、一輪車や竹馬が決められた所に置かれず、すみの方にうつみ重ね  
られています。

次の——部を漢字で書いてねいに書き直そう。  
みなさんは、休み時間後の状態にボールが残されたまま、ころがっているのを見かけた  
ことはありませんか。

三 丸山さんは、「文章の下書き」を読み返しています。次の(1)と(2)の問いに答え直そう。  
(1) 丸山さんは、習っている漢字がひらがなになっていた——部ア、ウ、エを漢字に書き直そうにしました。

(解答累計)	
(2) 積み重ね	
正答	44.4
誤答	41.5
無解答	14.1

(解答累計)	
(3) 原因	
正答	71.1
原のみ○	3.2
因のみ○	11.6
上記以外の解答	6.3
無回答	7.7

(考察)

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができているかを見る問題である。「転がる」は全国平均の正答率を上回っているが、「積み重ね」「原因」は10ポイント程度下回っている。「積み重ね」は「績み重ね」「責み重ね」、「原因」は「現因」「元因」と誤答した児童が多かったのではないかと考える。



(授業改善のポイント)

漢字の反復練習は、着実な効果が期待できるが、やみくもに繰り返して書くだけでは、単調で飽きやすく、また、頭を働かせずに機械的に取り組んでいるとなかなか覚えられない場合が少なくない。次のような方法で定着を図りたい。

- 意味を理解しながら学習する。「記号」としてでなく、意味を確認してから覚える。
- 漢字のみでなく、その漢字を使った文章を考えて書く。
- 漢字を構成する「部首」の意味を理解し、「なぜそのような意味かを」理解しながら覚える。
- 文章の中にある漢字にふれ漢字の習得を行う。読書や新聞を通して漢字を学び、分からない漢字があれば、読みや意味を確認したり、その字をノートに練習する。
- 進出漢字の練習が普段の家庭学習になるため、授業のノートや日記等で既習漢字を使った文章を書く。書けなかった場合は、調べたり、赤鉛筆で書き込んでいき、既習漢字を日常的に覚えていく。

全体の結果から

国語に関する児童質問紙の回答を白杵市と全国と比較してみると、

質問事項	白杵市（肯定的な回答）	全国（肯定的な回答）
国語の勉強は好きですか	63	58.4
国語の勉強は大切ですか	93.6	93.2
国語の授業の内容はよく分かりますか	87.7	84.2
国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立ちますか	93.3	91.8
国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていますか	84.1	82.2
国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか	72.5	63.8
国語の授業では、目的に応じて自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり、表現を工夫して書いたりしていますか	73.3	71.6
国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えを持ちたり、自分の考えを広げたりしていますか	74.3	74.3
今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。どのように解答しましたか	最後まで努力した79.9	最後まで努力した81.3

国語に関する児童質問紙の回答では、どの項目も、全国並みか、少し高い傾向にある。特に、「国語の授業では、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問をしている」は、全国や県平均よりも8.7ポイントほど高く、学校での対話的で深い学びの成果の表れである。「解答を文章で書く問題に最後まで努力した」は、全国平均より低くなっており、記述式の問題に自分の考えを自信や根拠をもって書ききることが課題である。また、全校平均より上回っているものの、国語の勉強が好きだと答えた割合が下がっている。これは、県学調でも見られた。つけたい資質・能力を明確にし、主体的・対話的で深い学びのある授業を行っていかなければならない。

学習指導要領の内容で見ると、思考力・判断力・表現力等の「書くこと」は全国より1.8ポイント上回っている。しかし、「読むこと」は、10ポイント近く下回っており、説明文の読み取り、読解力をつけていかなければならない。問題形式では、「選択式」「短答式」「記述式」とも全国の正答率を下回っている。特に記述式は4.1ポイント下回っている。

今回の全国学力・学習状況調査の結果より、以下のようなことも意識した授業行っていきたい。

- 学習指導要領で、その学年での指導事項をしっかりと理解し、単元構成を考える。
- その単元で「何ができるようにするか」を明確にし、児童がその学びを実感できるよう、学んだことを活かす学習を取り入れる。
- 文章と図や表を対応させ、伝えたいことを関連付けて説明したり書いたりする。
- 目的に応じて必要な条件を見つけるために、ただ読むのではなく、「何のために読むのか」ねらいを明確にして読む。
- 段落ごとのつながりを捉え、文章全体の構成を捉える。
- 要点・要約・要旨など、算数の公式のように、国語で使う言葉を大切に作る。
- 説明文の要旨や課題に対して自分の考えを述べる場合は、何の条件もなくまとめさせるのではなく、「キーワードとなる言葉を入れる」「図や表と関連付ける」「字数制限をする」など条件を設定してまとめるようにする。
- 漢字の習得・定着は、ただ書くのではなく、家庭学習等の仕方を工夫して行う。

令和3年度 全国学力・学習状況調査 小学校 算数

1. 結果の概要

分類・区分		対象問題数	白杵市	大分県	全国
全体		16	67	70	70.2
学習指導要領 の領域	A 数と計算	4	60.9	64.1	63.1
	B 図形	3	48.8	56.9	57.9
	C 測定	3	71.5	74.7	74.8
	D 変化と関係	3	74.6	74.9	75.9
	E データの活用	5	74.1	75.7	76
評価の視点	知識・技能	9	71	73.8	74.1
	思考・判断・表現	7	61.8	65.1	65.1
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	74.1	75.4	76
	短答式	6	71.8	75.6	75.8
	記述式	4	48.9	53.5	53

2. 学びの成果が見られる問題の趣旨（正答率が全国の前年を上回った問題）

○速さと道のりを基に、時間を求める式にすることができる。【変化と関係・知識技能・短答】（+0.5）  
 ○棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる。【データの活用・知識技能・選択】（+1.2）  
 ○示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができる。  
 【数と計算・思判表・短答】（+0.8）  
 ○小数を用いた倍についての説明を解釈し、他の数値の場合に適用して、基準量を1とした時に、比較量が示された少数に当たる理由を記述できる【数と計算・思判表・記述】（+2）

3. 課題の見られる問題の趣旨（正答率が全国の前年を-5以上下回った問題）

○二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる。  
 【数と計算・測定・思判表・記述】（-5.5）  
 ○三角形の面積の求め方について理解している。【図形・知識技能・短答】（-15.7）  
 ○複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる。【図形・思判表・記述】（-9.7）  
 ○集団の特徴を捉えるために、どのデータを集めるべきかを判断することができる。  
 【データの活用・思判表・選択】（-7）  
 ○商が1より小さくなる等分数（整数）÷（整数）の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができる。【数と計算・知識技能・短答】（-6.2）

4. 算数科に関する児童質問紙の回答

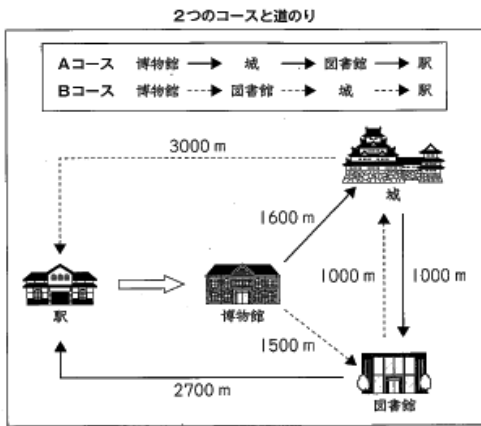
質 問	どちらかといえば		どちらかといえば	
	当てはまる	当てはまる	当てはまらない	当てはまらない
算数の勉強は好きだ	44.7	23.6	16.5	15.1
算数の勉強は大切だ	81	13.7	3.9	1.4
算数の授業の内容はよく分かる	52.1	32.4	12	3.5
算数の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つ	75	19.7	3.9	1.4
算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える	42.3	32.4	18	7.4
算数の問題の解き方が分からない時は、あきらめずにいろいろな方法を考える	45.4	39.4	10.2	4.9
算数の授業で公式や決まりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	53.2	36.6	8.1	2.1
算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートにかいている	72.9	19	6	2.1
今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方など各問題がありました。どのように解答しましたか	最後まで努力した 81.3	途中であきらめた 15.8	解答しなかった 2.8	

○問題番号【1-(1)】

問題の概要	出題の趣旨	白桦市正答率	県正答率	全国正答率
二つのコースの道のりの求め方を書く	二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる。	57	63.5	62.5

たけるさんたちは、地域の昔の<sup>こと</sup>について調べるために、博物館と城と図書館へ行きます。

- (1) たけるさんたちは、駅に集合してから博物館へ行きます。  
博物館の後のコースについては、下の2つのコースを考えました。



たけるさんたちは、道のりがBコースより短いAコースで行くことにしました。  
Aコースの道のりは、Bコースの道のりより何m短いですか。  
求め方を式や言葉を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。

(解答累計)		
AコースとBコースの道のりを求め、Aコースの道のりがBコースの道のりより何m短いか求めている。	◎正答	56.7
	求め方はあっているが、答えの間違い	0.7
	答えはあっているが、求め方の間違い	13.7
	求め方も答えも間違い	15.1
共通する1000mをのぞいて、AコースとBコースの道のりを求め、Aコースの道のりがBコースの道のりより何m短いか求めている。	◎正答	0
	求め方はあっているが、答えの間違い	0
	答えはあっているが、求め方の間違い	0.4
	求め方も答えも間違い	0.4
道のりが異なる二組の部分の道のりについてそれぞれの差を求め、Aコースの道のりがBコースの道のりより何m短いか求めている。	◎正答	0.4
	求め方はあっているが、答えの間違い	0
	答えはあっているが、求め方の間違い	0.4
	求め方も答えも間違い	1.8
上記以外の解答		8.8
無解答		1.1

(考察)

二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかを見る問題である。多くの児童が二つのコースの道のりをすべての合計を求め、それから2コースの差を求めている。図から必要な数値を探し出して計算しなければならない。答えの200mは正答しているものの、求め方の式や言葉が不足していたり、答えのみの記述をしていたりする誤答が14.5%ある。



(授業改善のポイント)

図を見ながら、必要な数値を選択し、事柄や関係を数学的に表現・処理しなければならない。必要な数値を選択するために、図に線を引いたり丸で囲んだりすることを心掛けたい。また、「Aコースの道のりは、Bコースの道のりより何m短いか」を求めるには、①Aコースの道のりを求める②Bコースの道のりを求める③差を求めるの順で解けばよい。問題解決のためには、見通しを持ち順序だてて式や言葉で説明していかなければならない。そのためには、日頃から「まず〇〇。次に〇〇。だから〇〇になる。」といった説明の仕方等でノートに記述したり、対話的な学習で意見交流していくことが必要であろう。さらに、「共通する部分は除いて計算する」「部分ごとの差を求める」といった多様な求め方にもふれ、思考力・判断力・表現力を伸ばしていきたい。

○問題番号【2-(1)】

問題の概要	出題の趣旨	白桦市正答率	県正答率	全国正答率
直角三角形の面積を求める式と答えを書く	三角形の面積の求め方について理解している	39.4	53.7	55.1

2

図1のような直角三角形があります。

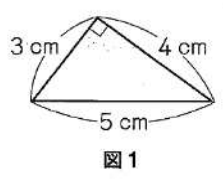


図1

(1) 図1の直角三角形の面積は何 cm<sup>2</sup> ですか。  
求める式と答えを書きましょう。

(解答累計)		
3 × 4 ÷ 2 と解答	◎ 6 cm <sup>2</sup>	39.4
	12 cm <sup>2</sup>	0.4
	それ以外の解答	0
3 × 4 と解答	6 cm <sup>2</sup>	0.4
	12 cm <sup>2</sup>	10.6
	それ以外の解答	0
5 × 3 ÷ 2 と解答 5 × 4 ÷ 2 と解答	6 cm <sup>2</sup>	0
	それ以外の解答	5.3
5 × 3 と解答 5 × 4 と解答	6 cm <sup>2</sup>	0.4
	それ以外の解答	3.2
3 × 4 × 5 ÷ 2 と解答 3 × 4 × 5 と解答	6 cm <sup>2</sup>	0.4
	それ以外の解答	31
上記以外の解答		8.5
無解答		0.7

(考察)

三角形の面積の求め方について理解しているかを確認する問題である。図形から底辺と高さにあたる辺を見取り、三角形の面積の公式である、底辺×高さ÷2の公式で求める。誤答を見ると、①底辺と高さの関係は理解しているものの、11%が面積が半分になることができていない。②8.9%が底辺と高さの関係を捉えきれず別の辺を底辺・高さとしている。③31, 4%が図形に表示された3つの辺を全てかけている。底辺と高さの関係を理解できていなかったり、公式の意味を理解せず、全ての辺をかけてしまっている。



(授業改善のポイント)

三角形の面積を求める基本的な問題である。三角形の底辺と高さの関係が理解できていない。直角三角形なので、底辺に対する高さは三角形の辺の長さで求められる。底辺は三角形の下辺になるといった思い込みや、面積を求めるのに必要のない辺の長さの値が示されることによって3つの辺の長さをかけ合わせている。また、平行四辺形の面積の半分になること等÷2をしなければならないことが理解できていない。面積や体積を求めるのに必要のない辺の長さの数値を提示することにより、求積するためにどの部分の長さを測ることが必要であるかを思考させ活用できるようにしたい。

○問題番号【2-(3)】

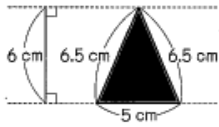
問題の概要	出題の趣旨	白杵市正答率	県正答率	全国正答率
二等辺三角形と組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く	複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる。	36.3	46.4	46

(解答累計)

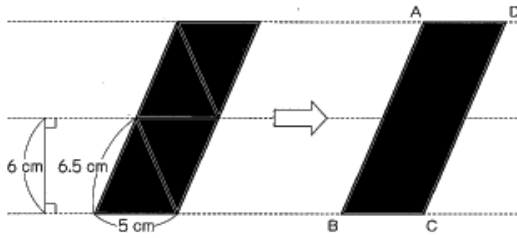
【正答条件】①平行四辺形ABCDの高さを求める式や言葉②平行四辺形の面積を求める公式を用いた式や言葉 ①②をすべて書き面積を60と書いている。			
①②をすべて書いている 60と解答	◎36.3	高さを6.5cmの2つ分ととらえている 60と解答	0
①②をすべて書いている 60以外	0.7	高さを6.5cmの2つ分ととらえている 60以外	16.6
①を書いている 60と解答	2.5	高さを6.5cmととらえている 60と解答	0
①を書いている 60以外	3.9	高さを6.5cmととらえている 60以外	2.2
②を書いている 60と解答	8.8	二等辺三角形の四つ分として求めているもの	1.8
②を書いている 60以外	0.4	それ以外の求め方 60と解答	1.4
高さを6cmととらえているもの 60と解答	0	それ以外の求め方 60以外	20.4
高さを6cmととらえているもの 60以外	2.5	無解答	2.8



(3) 次のような二等辺三角形があります。



上の二等辺三角形を4つ使い、次のように、同じ長さの辺どうしを合わせて、平行四辺形ABCDをつくりました。



平行四辺形の面積の公式を使って、平行四辺形ABCDの面積を求めます。

辺BCを底辺としたときの面積の求め方を、式や言葉を使って書きましょう。そのとき、平行四辺形ABCDの高さをどのように求めたのかがわかるようにしましょう。

また、平行四辺形ABCDの面積が何cm<sup>2</sup>になるのかも書きましょう。

### (考察)

二等辺三角形を4つ組み合わせた平行四辺形について、面積の求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかを見る問題である。面積を求める条件として「平行四辺形の高さをどのようにもとめたか」を記述しなければならない。平行四辺形の高さは、三角形の高さの2倍なので6cm×2＝12cmである。誤答の18.8％は三角形の高さ（一つの辺を底辺とすると、それと向かい合った頂点から垂直に書いた直線を高さという）を捉えきれておらず6.5cmを用いて高さを求めている。また、条件である「どのように高さを求めたか」を記述していない（9.2％）、「平行四辺形面積の公式」を使っていない（3.2％）など、条件を満たしていない誤答が多い。

### (授業改善のポイント)

この問題も、三角形の底辺に対する高さが理解が徹底できていない。底辺に対する高さの数値が図形の外にあるため捉えきれていない。三角形の向きや形によって高さにあたる数値がどこにあたるのかを何パターンも出合わせ、必要な数値のみを選択させることを取り入れたい。また、条件に合った説明を（〇〇を使って、〇〇の方法で等）させることも授業で取り入れたい。

## ○問題番号【3-(5)】

問題の概要	出題の趣旨	白桦市正答率	県正答率	全国正答率
5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を調べるために、適切なデータを選ぶ。	集団の特徴を捉えるために、どのデータを集めるべきかを判断することができる。	66.9	72.6	73.9

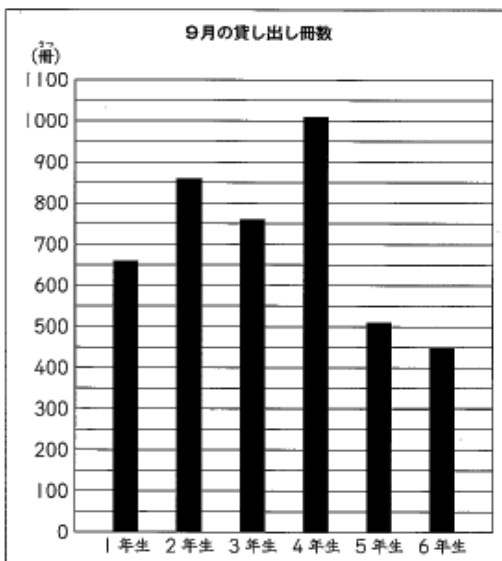
3

ひよりさんたちは、10月の図書委員会で、図書室の本の貸し出しの様子について話し合っています。



最近、5年生と6年生は、ほかの学年より本を借りていないのではないのでしょうか。

そこで、9月の貸し出し冊数を調べ、下のグラフに表しました。



(5) ひよりさんたちは、アンケート調査の結果について、話し合っています。



ひより

図書室には読みたい本が少ないと思っている人や、地域の図書館で本を借りている人が多いことがわかりました。



そうた

図書室でもっと本を借りてもらうために、5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を、学校の図書室に置いてもらうことにはどうでしょうか。

そこで、5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を、調べることにしました。

5年生と6年生から、どのようなデータを集めるとよいですか。

下の1から5までの中から、ふさわしいものを2つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 学校の図書室をよく利用している曜日
- 2 学校の図書室に置いてほしい本の題名
- 3 学校の図書室をよく利用している時間帯
- 4 地域の図書館をよく利用している曜日
- 5 地域の図書館で最近借りた本の題名

## (解答累計)

2・5を解答	◎66.9	1・4を解答	2.8
1・2を解答	5.3	3・4を解答	0.4
2・3を解答	8.1	2のみ解答	0.7
2・4を解答	4.6	5のみ解答	0
1・5を解答	2.8	1のみ解答	0
3・5を解答	1.8	3のみ解答	0
4・5を解答	2.5	4のみ解答	0
1・3を解答	1.8	上記以外の解答	0.4
		無解答	2.1

## (考察)

集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができるかを見る問題である。2人の意見から、「5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を調べることにしました。」と記述されている。「読みたい本」を調べるには②「置いたほしい本」、「読まれている本」を調べるには⑤「最近借りた本」を選択すればいい。誤答の①③④は利用されている曜日や時間帯であるので読みたい本・読んでいる本とは関係がない。誤答で多い1・2 (5.3%) 2・3 (8.1%) は、「学校の図書室」が共通しているので選択したと思われる。



## (授業改善のポイント)

身の回りの事象について、その事象の因果関係や傾向をデータに基づいて判断する統計的な問題解決の方法を知り、その方法を考察していくことは重要である。統計的な問題解決においては、「問題－計画－データ分析－結論」というような段階からなる統計的探究プロセスがある。中学年の学習から、身近な問題を設定する活動や、その問題に対して集めるべきデータとその集め方などについて徐々に扱っていく。高学年では、総合的な学習の時間等の探究的な学習などで、一連の統計的探究プロセスを意識し、自分たちで問題を設定し、調査計画を立てることや、分析を通じて判断した結論についても別の観点から妥当性を検討できるようにすることも扱いたい。社会科や理科等のグラフや表でも、事象や変化を捉え分析し、目的に応じてデータを収集、分類整理し、結果を適切に表現することや、統計データの特徴を読み取って判断する力をつけていきたい。

## ○問題番号【4-(2)】

問題の概要	出題の趣旨	白杵市正答率	県正答率	全国正答率
8人に4Lのジュースを等しく分ける時の一人分のジュースの量を求める式と答えを書く	商が1より小さくなる等分数(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができる。	49.3	55.6	55.5

## (解答累計)

4÷8と解答	◎0.5	49.3	8÷4と解答	0.5 1/2と解答	1.4
	◎1/2	0		2と解答	4.3
	5	0		それ以外・無解答	0
	0.05	0	8×4 4×8	0.5 1/2と解答	0
	2	0.4		それ以外・無解答	1.4
	1/8	0	それ以外の解答		2.5
	上記以外・解答なし	0	無解答		2.1

(考察)

商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算することができるかどうかをみる問題である。8人に4Lのジュースを等分することから、一人分のジュースの量を求めるためには4Lのジュースを8等分すればよいので、4÷8と立式し、計算することが必要である。除法の問題であるとは理解できているが、誤答の多くが8÷4=2と答えている(43%)。(整数)÷(整数)の場面では被除数の方が除数より大きくなると考えていたり、文章問題の数値の順に立式したりしたためであろう。



(授業改善のポイント)

除法で表すことができる2つの数量の関係を捉えて式に表して、計算することができるようにすることは大切である。わり算は、(全体の数÷いくつ分=1あたりの数)で求められる。全体の数といくつ分にあたる数が混同し、式を立てる時に逆になってしまうことがある。児童が文章問題から立式するためには、問題場面をイメージしやすいようにする必要がある。例えば、①数値をより簡単な数に置き換えて計算する。②数直線に表し2つの数量関係を捉える。③答えが全体の数より増えるか減るか見通しを持つ(8人に4Lだから、1人分は1Lより少なそうだ)問題場面をイメージできるようになるまでこのような解決の手立てを繰り返して行うことが必要であろう。

全体の結果から

算数に関する児童質問紙の回答を白杵市と全国と比較してみると、

質問事項

白杵市(肯定的な回答)

全国(肯定的な回答)

算数の勉強は好きですか

68.3

67.8

算数の勉強は大切ですか

94.7

93.8

算数の授業の内容はよく分かりますか

84.5

84.6

算数の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立ちますか

94.7

92.6

算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか

74.7

73.9

算数の問題の解き方が分からない時は、あきらめずにいろいろな方法を考えますか

84.8

82.7

算数の授業で公式や決まりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか

89.8

89

算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートにかいていますか

91.9

91.9

今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方など各問題がありました。どのように解答しましたか

最後まで努力した81.3

最後まで努力した79.9

算数に関する児童質問紙の回答では、どの項目も、全国並みか、少し高い傾向にあり、算数の学習の大切さや学習したことは将来役に立つと考えている児童は多い。

領域ごとに見てみると、「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」とも、全校の正答率を下回っている。特に図形は、9.1ポイント下回っている。

評価の視点で見ると、「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに3ポイント近く下回っている。

問題形式では、「選択式」「短答式」「記述式」とも全国の正答率を下回っている。特に記述式は4.1ポイント下回っている。

大問は4問あるが、問われている内容は、基礎的なものが多く、前問との関連性もあまりない。問題の内容を十分把握できていなかったり、解答の条件を満たしていなかったりしていた解答多い。

今回の全国学力・学習状況調査の結果より、以下のようなことも意識した授業行っていきたい。

○新大分スタンダードを意識し、子どもたちが課題を見つけ、その学びを自分の言葉でまとめること。

○1時間毎の授業のめあてと振り返りをしっかりと行い、単元を通して「どのようなことができるようになったか」を実感できること。

○多様な考えを出し合う課題と条件に合わせて考えを練り合う課題のどちらも大切にしていくこと。

○自分の考えを式や言葉でノートに書き表したり、対話的な学びで表現したりし、説明する力を磨くこと。

○問題を解くのに不要な数値等を提示し、自らが必要な数値・情報を選択し課題解決をしていくこと。

○探究的な学習等で統計的学習プロセスを活用し、グラフや表を作成・分析し課題に対する結論を述べること

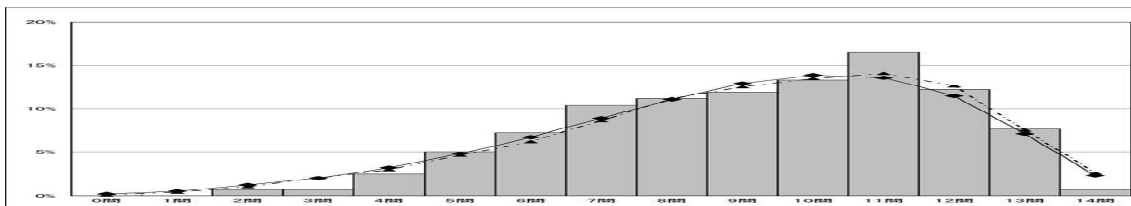
○家庭学習や小テスト等で基礎基本の定着を積み重ねること。

# 【臼杵市】令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

正答数分布図 横軸は正答数、縦軸は割合（◆：全国 ▲：大分県 □：臼杵市）

【中学校国語】全問 14 問 平均正答率 66 （大分県 66、全国 64.9）

令和3年度



数値の高いもの	数値の低いもの
<ul style="list-style-type: none"> <li>○正答率が全国値を上回った設問は 14 問中 10 問</li> <li>○市内全中学校が全国値を上回った設問は 4 問</li> <li>・「話合いや話題の方向を捉える」 93.2% (全国+3.5%)</li> <li>・「質問の意図を捉える」 94.2% (全国+1.7%)</li> <li>・話合いや話題の方向を捉えて、話す内容を考える」 62.6% (全国+5.5%)</li> <li>・書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える。」 81.3% (全国+6.8%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○正答率が全国値を下回った設問は、14 問中 4 問</li> <li>・「書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く」(書く) 20.1% (全国-4.7%)</li> <li>・「文脈の中における語句の意味を理解する」(読む) 40.6% (全国-3.1%)</li> <li>・「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」(読む) 19.8% (全国-0.7%)</li> <li>・「相手や場に応じて敬語を適切に使う」(読む) 38.5% (全国-1.8%)</li> </ul>

## 【成果】

- 臼杵市の正答率は 66 で（大分県 66、全国値 64.9）全国値を上回っている。
- 4 領域中 3 領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は全国・県平均を上回っている。
- 正答率が高い。（14 問中 10 問が県・全国を上回る）
- 無解答が少ない。（14 問中 13 問が全国を下回り、うち 4 問は無解答率 0%）。
- 低学力層の生徒（正答数 4 問以下）の割合が県・全国平均より少ない。
- 生徒質問紙調査から、授業改善が進み、生徒に国語の学習の必要性や有用性を意識させることができている。
  - ・「国語の授業内容はよくわかりますか」 82.6% (県 80.6 全国 80.1)
  - ・「国語の勉強は大切だと思いますか」 91.7% (県 80.6 全国 91.6)
  - ・「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」 89.9% (県 89.5 全国 88.7)
  - ・「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」 98.2% (県 96.9 全国 96.5)
  - ・「学級の生徒との間で話しあう活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」 82.6% (県 78.6 全国 77.8)

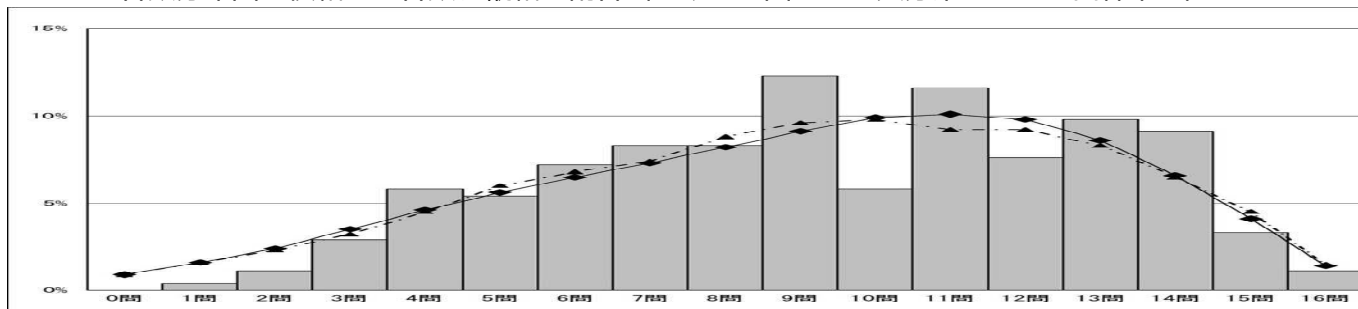
## 【課題と対策】

- 例年各種学力調査の「読むこと」の正答率・達成率が低いので、国語部会でも小中連携して「読むこと」の指導法を改善する必要がある。（令和 2 年度 2 年生時の大分県学力定着状況調査でも「読むこと」の領域の達成率は 60.6 ポイントで、他の 3 領域に比べ 20 ポイント以上低かった。）  
 「読むこと」の文学的文章の指導に当たっては、物語の語り手（視点）を明確にする。また、登場人物の心情変化を読み取らせる学習では、必ず描写を根拠にして読み取らせ、その描写を根拠にした理由や、心情変化に至る過程などを文章で説明させる活動を取り入れる。
- 授業で教材の内容を教えるのではなく、テキストは変わっても、場面展開や心情、行動、言動の意味、ものの見方・考え方を読み取るための「読み方（スキル）」を指導し、読みの汎用性を高める。
- 「敬語」等の指導に当たっては、授業で「知識・技能」を正確にインプットし、日常生活の一場面を想定して「知識・技能」を適切に「思考・判断・表現」するためのアウトプットする活動を取り入れる。また、定期テストでも「知識・技能」の正確性と「思考・判断・表現」の適切さを判断する問題を出題し、定着を図る必要がある。
- 臼杵市平均では正答率が全国を越えている問題も、正答率に学校差（4 四：最大 38.1）があり、課題が見られる問題も各校で違うので、各校で分析を十分にし、必要な指導事項を明確にして、授業改善する必要がある。
- 生徒質問紙調査「解答時間は十分でしたか（国語）」によると 31.8%（全国 24.7）の生徒が、不足を感じているので、テキストを素早く読む指導や、時間内に解答する指導が必要である。（ただし、前述のように無解答は全国よりも遙かに少ないので、生徒の粘り強く取り組もうとしている意欲も感じられる。）
- 国語科の授業で学習して習得した「知識・技能」を定着・日常化させたり、実際の日常生活の場面（会話・日記・生徒会活動・敬語の使い方等）や他教科（班での話合い・論理的な説明・資料の読み取り等）での指導のチャンスを活用したりするために、国語科での学習内容を他教科にも発信することが必要である。また、カリキュラムマネジメントの観点からも、各教科の授業者が国語科の既習事項を把握しておくことは、その教科での学習活動をスムーズにしたり、理解を深めたりするのに有効であると考えられる。

# 【白杵市】令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

【中学校数学】 全16問 平均正答率 59（大分県 57、全国 57.2）

正答数分布図 横軸は正答数、縦軸は割合（◆：全国 ▲：大分県 ■：白杵市）



数値の高いもの	数値の低いもの
<p>○正答率が全国値を上回った設問は、16問中10問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「関数の意味を理解している」 55.1%(全国+7.1)</li> <li>・「与えられたデータから中央値を求めることができる」 90.9%(全国+6.4)</li> <li>・「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」 33.0%(全国+5.3)</li> <li>・「相対度数の必要性と意味を理解している」 42.4%(全国+5.6)</li> <li>・「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」 15.9%(全国+4.8)</li> </ul>	<p>○正答率が全国値を下回った設問は、16問中6問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「おうぎ形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解している」 66.3%(全国-1.8%)</li> <li>・「数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる」 26.8%(全国-3.5%)</li> <li>・「平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができる」 35.9%(全国-8.4%)</li> <li>・「錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している」 62.7%(全国-1.6%)</li> </ul>

## 【成果】

### ○「関数」「資料の活用」で正答率が高い

「関数」では全国より5.3%、「資料の活用」では+4.9%と高かった。例年、「資料の活用」は、全国の正答率を下回っていたが、日常の授業改善や白杵チャレンジの成果により上昇した。

### ○データの読み取りができています

与えられたデータや表・グラフから必要な情報を読み取ることができている。白杵チャレンジや数学のデータベースなどを活用することで、データを読み取る力がついてきている。

### ○生徒質問紙(%)における肯定率が高い

数学の授業で、日常生活に関連付けた問いを設定したり、丁寧な板書やめあて、課題の設定などの成果が出ている。

2年次に習熟度に応じた指導を行うことにより、「わかった」「できた」へつなげる授業が行われて下位層が減少した。

- ・「数学の授業は好きですか」 62.5%（県 59.6・全国 59.1）
- ・「数学の授業の内容はよく分かりますか」 80.8%（県 74.6・全国 74.6）
- ・「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」 80.5%（県 76.4・全国 74.6）
- ・「数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」 79.4%（県 75.5・全国 75.8）

## 【課題と対策】

### ○「図形」領域の正答率が低い

「図形」の領域では、根拠や理由を用いて説明することができていない。無回答率は、低いものの必要な条件を記述できていない生徒や不十分な生徒がいる。

- ・説明や証明の書き方や適切な用語や根拠を用いることの徹底  
日頃の授業や定期考査の問題、白杵チャレンジの問題に図形の証明を多く取り入れ、フォローアップを行う。

### ○各学校で正答率に差がある

学校ごとに細やかな分析を行い、正答率の低い問題に対してのフォローアップを行う。

- ・正答率の高い学校の取り組みを数学部会全体で共有  
生徒の力を伸ばすための方法について、意見交流をする。

### ○上位層・下位層ともに伸ばす授業改善

- ・多様な考え方を引き出させるような授業内容の工夫やつまずきのある生徒や手立ての必要な生徒への支援を丁寧に取り組んでいく。

# 【臼杵市】

## 令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

### 1 調査結果の概要

#### 小学校：学校質問紙

##### ・ICTの活用について

「○(66)前年度に、教員が大型提示装置(プロジェクター、電子黒板など)などのICT機器を活用した授業を1クラス当たり、どの程度行いましたか」は高い数値が出ているが、「▲(64)コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、遠隔・オンライン授業を行うための準備ができていますか」が、全国、県と比べて整備状況や活用に向けた意識の低さがみられる。

「▲(75)児童一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか」が、極端に数値が低い。一人1台端末の有効活用に課題がある。

##### ・小中一体教育(小中の連携)について

「○(78)前年度までに、近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか」が、全国・県と比較して高い数値が出ている。

##### ・保護者や地域との協同について

「○(82)保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか」が、高い数値が出ている。

#### 中学校：学校質問紙

##### ・学びの基盤(学習規律)について

「○(10)調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習規律(他の人が話をしている時はしっかりと聞く、授業開始のチャイムを守るなど)を維持しましたか」が、全校で実施されている。(100%)

##### ・OJT及び校内研究の充実について

「○(14)教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか 週1回程度、または、それ以上行った」割合が80%。「○(23)授業研究や事例研究など、実践的な研修をよく行っている」割合が80%。

##### ・ICTの活用について

「○(66)前年度に、教員が大型提示装置(プロジェクター、電子黒板など)などのICT機器を活用した授業を1クラス当たり、どの程度行いましたか」は高い数値が出ているが、「▲(64)コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、遠隔・オンライン授業を行うための準備ができていますか」が、全国、県と比べて整備状況や活用に向けた意識の低さがみられる。

「▲(75)児童一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか」が、極端に数値が低い。一人1台端末の有効活用に課題がある。

### 2 臼杵市の学校質問紙調査の結果をふまえて

#### ・ICTの有効活用に向けた環境及び条件整備

「教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか」の問いに対しての数値が低い、「実際に使いながらのトライアンドエラー」を繰り返していくことの意識も持ってもらう必要がある。そのためにも、事例の提示やサポート体制を整備していく必要がある。

#### ・研修体制(OJT)の充実

校内研究や中学校ブロックごとの取組の充実や授業力向上アドバイザーによる指導の充実

#### ・生活面及び学習面での家庭との連携

保護者や地域の協力体制を活かし、コミュニティスクールの取組とも絡めて学習面においても連携

# 【臼杵市】

## 令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

### 1 調査結果の概要

#### 児童質問紙

- 基本的な生活習慣は身につけている。
- 算数や国語はおおむね好きで意欲的である。
- 規範意識は高い。
- ICT機器の活用が進み、学習に役立っている。子どもたちもその有用性を理解している。
- △自分で計画を立てて学習することがやや苦手。
- △読書をすすんでする児童が少ない。
- △新聞を読む児童がほとんどいない。
- △話し合い活動については、課題が見られる。

#### 生徒質問紙

- 友だちの考えを聞き、学級で話し合ったことなどを素直に受け止めることができる生徒が多い。
- 学級での話し合いに自分の意見をきちんと持って臨んでいる。
- 「勉強は大切である」と感じている生徒が多く、授業にもきちんと取り組んでいる。
- △ 相手の意見を聞き、自分の考えを深めたり、発展させたりして考えることが苦手な生徒が多い。
- △ 自分の考えを工夫して発表したり、伝えたりすることが苦手な生徒が多い。
- △ テストの問題を解く時間配分が上手くできない生徒が多い。
- △ 家庭学習の習慣が身につけていない、時間が十分に確保できていない生徒が多い。

### 2 臼杵市の児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

- ・新大分スタンダードの授業を今まで同様軸にしなが、特に「生徒指導の3機能」をいかした、意見交流の場を学年の発達段階に応じて設定する。
- ・大分県学力定着状況調査と全国学力学習状況調査の児童生徒質問紙の差が表れており、学年格差が見られた。学力の結果にも相関関係が表れており、2つの学力調査結果を客観的数値として各校で分析し、校内研究等で情報共有する。
- ・家庭学習に関する課題に対して、児童会や生徒会及び保護者と連携した「ゲームやSNSに関するルール」を家庭で決めるなど、児童生徒や保護者に主体性を持たせて課題解決をめざすような取組を学校と連携して実施する。